

## 学会だより

### 研究助成公募等の案内

#### ◇ 平成 22 年度化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金候補者募集

平成 22 年度化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金候補者を下記の要領にて募集致します。多数のご応募をお願い致します。

なお、本研究奨励金は、化学またはバイオの素材に関する基礎・応用研究および利用技術開発に携わる有望な研究者に対して、平成 8 年度より、研究奨励金の交付を行っているものです。

1. 対象分野および対象者：化学またはバイオの素材に関する基礎・応用研究および利用技術開発に携わる有望な研究者。なお、ここでいう化学素材の研究は、バイオテクノロジー・ライフサイエンスと何らかの接点があることが望ましい。
2. 対象者：交付の時点で、協会の会員（個人会員、または賛助会員会社・維持会員会社の役員・従業員）であり、平成 22 年 4 月 1 日において年齢 50 才未満であること。
3. 採用件数：毎年 7 件以内
4. 金 額：1 件につき 50 万円
5. 申込み方法：ホームページ (URL:<http://www.jba.or.jp/>) から募集要項・応募用紙をダウンロードし、所定事項をご記入の上、下記宛て郵送、または e-mail でお申し込みください。(応募用紙は、ご請求により郵送することもできます。)
6. 応募締切り：平成 22 年 5 月 7 日 (金)
7. 申込み先：(財) バイオインダストリー協会  
化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金事務局  
土橋・玉手  
〒 104-0032 東京都中央区八丁堀 2-26-9 グランデビル 8F  
TEL: 03-5541-2731, FAX: 03-5541-2737  
E-mail: [grant2010@jba.or.jp](mailto:grant2010@jba.or.jp)

#### ◇ 財団法人バイオインダストリー協会 平成 22 年度バイオインダストリー協会賞受賞候補者推薦募集

平成 2 年度に創設された有馬啓記念バイオインダストリー協会賞の趣旨を継承発展させ、平成 19 年度に設立されたバイオインダストリー協会賞受賞候補者の推薦を募集します。本賞はバイオサイエンス、バイオテクノロジー

およびバイオインダストリーの分野における顕著な業績を顕彰するものです。

1. 対象分野：バイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野における研究・技術開発および産業化推進活動で、バイオインダストリーの健全な発展に大きな貢献をなし、または、今後の発展に大きな貢献をなすと期待される業績をあげた個人、小人数のグループまたは組織とする。対象とする分野は、自然科学、人文科学および社会科学とし、生命倫理、リスクアセスメント等も含む。また、対象業績には、国民理解、人材育成、標準化、生物資源アクセス推進、特許制度改革、国際共同研究推進などを含む。
2. 対象者の資格：年齢、所属を問わない。
3. 賞状および賞金：受賞者（1 グループ・組織は 1 対象者とみなす）に対し、当協会会長名の賞状および副賞 100 万円を授与する。2 件の場合は、副賞を等分する。
4. 募集方法：毎年 1 回、候補者の募集を広く行う。自薦、他薦を問わない。
5. 推薦締切り：平成 22 年 5 月 7 日 (金)
6. 推薦方法：ホームページ (<http://www.jba.or.jp>) から推薦用紙をダウンロードし、所定事項をご記入のうえ、下記にご郵送、または e-mail でお申し込みください。後ほど、候補者には、選考委員会の規定に従い、業績のレジメ等を書いていただきます。
7. 問合せ先：〒 104-0032 東京都中央区八丁堀 2-26-9 グランデビル 8F  
(財) バイオインダストリー協会  
バイオインダストリー協会賞事務局 玉手  
TEL: 03-5541-2731, FAX: 03-5541-2737  
E-mail: [bio\\_prize2010@jba.or.jp](mailto:bio_prize2010@jba.or.jp)

## 談話会だより

### ◇ 北海道地区

日本育種学会北海道談話会

平成 21 年度年次講演会 (札幌農林学会共催) と総会が例年通り行われたのに加え、北海道談話会会報 50 号記念講演会が平成 21 年 12 月 5 日 (土) に北海道大学農学部にて行われた。記念講演会の演題は次の通りである。「談話会報のイネ研究からみた北海道稲作の進展」佐々木忠雄 (北海道米麦改良協会)、「談話会 50 年におけるムギ類研究の歩み」天野洋一 (北海道米麦改良協会)、「談話会報にみるマメ類研究の 50 年」土屋武彦 (北農会)、「談話会 50 年におけるイモ類研究の歩み」村上紀夫 (ホクレン農業協同組合連合会)、「談話会報にみる飼料作物研究の 50 年」中嶋博 (北海道大学)、「てん菜研究の 50 年——北海道談話会とともに——」八戸三千男 (NPO 法人グ

リーントテクノバンク)。講演会に引き続き、懇親会が北大百年記念会館さくら亭で行われた。記念講演会に先立ち、年次講演会が行われた。演題は次の通りである。北海道におけるダイズ・サツマイモ混植の試行。○実山豊<sup>1</sup>・市川伸次<sup>2</sup> (1. 北大院農, 2. 北大北方生物圏フィールド科学センター), 栽植密度反応における日米ダイズ品種間の比較。○義平大樹<sup>1</sup>・加藤宏<sup>1</sup>・小阪進一<sup>1</sup>・白岩立彦<sup>2</sup> (1. 酪農学園大, 2. 京大院農), ダイズ茎疫病圃場検定による遺伝資源の抵抗性評価。○山下陽子<sup>1</sup>・田澤暁子<sup>2</sup>・南忠<sup>1</sup> (1. 道立中央農試, 2. 道立十勝農試), アズキ茎疫病圃場抵抗性系統の作出。○田澤暁子<sup>1</sup>・小倉玲奈<sup>2</sup>・藤田正平<sup>3</sup>・佐藤仁<sup>1</sup>・島田尚典<sup>1</sup>・青山聡<sup>2</sup>・佐藤三佳子<sup>4</sup> (1. 道立十勝農試, 2. 道立上川農試, 3. 道立中央農試, 4. 道立北見農試), 低温処理による小豆の開花・着莢耐冷性系統の選抜。○島田尚典<sup>1</sup>・青山聡<sup>2</sup>・佐藤仁<sup>1</sup> (1. 道立十勝農試, 2. 道立上川農試), 雑草種の埋土種子調査法の確立と利用について。○石川枝津子<sup>1</sup>・小林浩幸<sup>2</sup> (1. 北農研, 2. 東北農研), 十勝地方における不耕作地での資源作物生産。○高橋宙之<sup>1</sup>・小林創平<sup>1</sup>・岡崎和之<sup>1</sup>・田口和憲<sup>1</sup>・黒田洋輔 (北農研), 窒素施肥量および栽植密度の違いが春播したナタネの収量におよぼす影響。○北畠真吾<sup>1</sup>・秋本正博 (帯畜大), マツ科樹木の樹液の施用がトマトの生長と食味におよぼす効果。○工藤悠<sup>1</sup>・本多博一<sup>2</sup>・徳橋和也<sup>2</sup>・秋本正博<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 大朗物産 (有)), 薬用植物カンゾウ (甘草, *Glycyrrhiza uralensis*) の高品質系統の育成研究: 薬用成分グリチルリチン高含有系統の選抜。○高上馬希重<sup>1</sup>・林茂樹<sup>2</sup>・柴田敏郎<sup>2</sup>・山本豊<sup>3</sup>・浅津サンドラなおみ<sup>1</sup>・澤聡子<sup>1</sup>・関崎春雄<sup>1</sup> (1. 北海道医療大・薬, 2. 医薬基盤研・薬用植物資源研究センター・北海道研究部, 3. 栃本天海堂 (株)), 東北海道におけるギョウジャニンニクの生態特性 (2)。○田丸典彦<sup>1</sup>・木村浩子<sup>2</sup> (1. 北海道教育大学 釧路校, 2. 釧路市立青葉小学校), 北海道野生集団におけるオオサクラソウの葉緑体ゲノムの遺伝的変異。○佐藤由佳<sup>1</sup>・我妻尚広<sup>1</sup>・岡本吉弘 (酪農学園大大学院酪農学研究科), 中国黒竜江省八五四農場の農業事情。佐藤久泰 (佐藤久泰技術士事務所), コシヒカリ産地間でのトランスポゾンによる遺伝的差異。○石黒聖也<sup>1</sup>・高須温子<sup>1</sup>・堀田夕夏<sup>1</sup>・佐野芳雄<sup>1</sup>・貴島祐治 (北大院農), 幼苗期に矮性を発現するイネ変異体の遺伝解析。○平季幸<sup>1</sup>・長野宏則<sup>1</sup>・佐野芳雄<sup>1</sup>・高牟礼逸朗 (北大院農), イネ種間交雑より見出された交雑不親和現象における第6染色体動原体領域の役割。○新屋雄平<sup>1</sup>・小出陽平<sup>1</sup>・松原一樹<sup>1</sup>・池永充伸<sup>1</sup>・佐野芳雄 (北大院農), アジア-アフリカイネ間の生殖障壁をもたらす *SI* 遺伝子座における遺伝子多型。○荻野篤史<sup>1</sup>・小出陽平<sup>1</sup>・大西一光<sup>1</sup>・金澤章<sup>1</sup>・佐野芳雄 (北大院農), イネの少分げつ変異体における分げつ伸長遺伝子の発現解析。○建部えり子<sup>1</sup>・得字圭彦<sup>1</sup>・高牟礼逸朗<sup>2</sup>・加藤清明<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 北大院農), 新たな少分げつ突然変異体 45 系統のスクリーニング。○船引厚志<sup>1</sup>・建部えり子<sup>1</sup>・得字圭彦<sup>1</sup>・高牟礼逸朗<sup>2</sup>・加藤

清明<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 北大院農), イネの分げつ伸長を制御する *Rcn3* と *Rcn5* のマッピング。○清水裕嗣<sup>1</sup>・佐藤毅<sup>2</sup>・得字圭彦<sup>1</sup>・高牟礼逸朗<sup>3</sup>・加藤清明<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 道立上川農試, 3. 北大院農), イネ ABC トランスポーター *Rcn1/OsABC5* の根における機能解析。○嬉杏奈<sup>1</sup>・古川薫<sup>1</sup>・得字圭彦<sup>1</sup>・高牟礼逸朗<sup>2</sup>・加藤清明<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 北大院農) 低温発芽性遺伝子 *qLTG11* の候補領域の絞り込み。○岩田夏子<sup>1</sup>・藤野賢治 (ホクレン農総研), イネ *Hdl* 対立遺伝子の表現型評価。○藤野賢治<sup>1</sup>・松田康之<sup>1</sup>・岩田夏子<sup>1</sup>・野々上慈徳<sup>2</sup>・矢野昌裕<sup>3</sup> (1. ホクレン農総研, 2. 農林水産先端研, 3. 生物研), 登熟気温と着粒部位が北海道産酒米の心白発現に及ぼす影響。○後藤英次<sup>1</sup>・佐々木亮 (道立中央農試), 水稻不稔がアミロース含有率に及ぼす影響について。○沼尾吉則<sup>1</sup>・木下雅文<sup>1</sup>・佐藤毅<sup>1</sup>・柳原哲司 (道立上川農試), キンギョソウトランスポゾン *Tam3* の体細胞と生殖細胞における転移挙動の差異。○建尾太一<sup>1</sup>・浅野真宏<sup>1</sup>・内山貴子<sup>1</sup>・佐野芳雄<sup>1</sup>・貴島祐治 (北大院農), キンギョソウトランスポゾン *Tam3* の転移抑制因子 *stabiliser* の単離と機能について。○笠原朋<sup>1</sup>・内山貴子<sup>1</sup>・佐野芳雄<sup>1</sup>・貴島祐治 (北大院農), 「ゆめちから/きたほなみ」由来の半数体倍加系統におけるコムギ赤かび病抵抗性の QTL 解析。○尾上ちひろ<sup>1</sup>・西尾善太<sup>2</sup>・伊藤美環子<sup>2</sup>・田引正<sup>2</sup>・長澤幸一<sup>2</sup>・三浦秀穂<sup>1</sup>・山内宏昭<sup>2</sup> (1. 帯畜大, 2. 北農研), 北海道のコムギ品種における「蘇麦 3 号」由来の赤かび病抵抗性 QTL 導入効果と育種への利用。○小林聡<sup>1</sup>・足利奈奈<sup>1</sup>・竹内徹<sup>2</sup>・鈴木孝子<sup>2</sup>・吉村康弘<sup>1</sup> (1. 道立北見農試, 2. 道立中央農試), コムギ縞萎縮病 (WYMV) 抵抗性遺伝子 *YmMD* の座乗領域と準同質遺伝子系統の収量性。○宗形信也<sup>1</sup>・鈴木孝子<sup>1</sup>・浅山聡<sup>1</sup>・神野裕信<sup>1</sup>・竹内徹 (道立中央農試), コムギ雪腐黒色小粒菌核病抵抗性の幼苗検定法。吉村康弘 (道立北見農試), ゼンコウジコムギ由来の白粒系統の発芽温度反応。○横石智彦<sup>1</sup>・大西一光<sup>1</sup>・西尾善太<sup>2</sup>・伊藤美環子<sup>2</sup>・田引正<sup>2</sup>・三浦秀穂<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 北農研), 強力粉および薄力粉適性に優れた強種子休眠性白粒コムギ系統の作出に向けて。○山本淳生<sup>1</sup>・三浦秀穂 (1. 帯畜大), コムギ種子休眠性 QTL, *QPhs.ocs-3A1*, の座乗位置の決定。○前川穂菜美<sup>1</sup>・大西一光<sup>1</sup>・加藤清明<sup>1</sup>・中村信吾<sup>2</sup>・三浦秀穂<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 作物研), 圃場およびガラス室栽培した白粒×白粒コムギ集団の種子休眠性 QTL の解析。○藤井雅之<sup>1</sup>・三浦秀穂 (帯畜大), 晩秋に播種した春まき小麦の越冬性の品種間差。○神野裕信<sup>1</sup>・藤田正平 (道立中央農試), 穂発芽性極難春まきコムギの農業特性。○来嶋正朋<sup>1</sup>・足利奈奈<sup>1</sup>・中道浩司<sup>2</sup>・吉村康弘<sup>1</sup> (1. 道立北見農試, 2. 道立上川農試), 粉粒度解析法による, 育種母材選定および高製粉性小麦系統の開発～国際穀物学会 2008 での参加報告～。中村洋 (作物研), 根量の異なるバレイショ品種間における蒸散特性の差異。○岩佐倫希<sup>1</sup>・三浦紗土<sup>1</sup>・吉川亜紗子<sup>2</sup>・市川伸次<sup>3</sup>・柏木純一<sup>1</sup>・実山豊<sup>1</sup>・岩間和人<sup>1</sup> (1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大北方生物圏フィー

ルド科学センター), 根量の異なるバレイショ2品種における新型土壌マトリックポテンシャルセンサーMPS-1を用いた吸水特性の評価. ○出口哲久<sup>1</sup>・納谷拓実<sup>1</sup>・伊藤英悟<sup>2</sup>・松本学<sup>2</sup>・市川伸次<sup>3</sup>・河合孝雄<sup>3</sup>・岩間和人<sup>1</sup>(1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大北方生物圏フィールド科学センター), バレイショC×Eマップ集団における根量の遺伝的変異. ○三浦紗土<sup>1</sup>・岩佐倫希<sup>1</sup>・吉川亜紗子<sup>2</sup>・市川伸次<sup>3</sup>・Visser R<sup>4</sup>・岩間和人<sup>1</sup>(1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大北方生物圏フィールドセンター, 4. オランダ・ワーゲンゲン大学), 加工用馬鈴しょの貯蔵およびリコンディショニング条件. ○安田慎一・中嶋正之・坂野綾・道端沙織(ホクレン農総研), 光照射によるジャガイモ塊茎色とクロロフィル量の変化. ○尾崎英樹<sup>1</sup>・山田龍太郎<sup>2</sup>・森元幸<sup>2</sup>・三浦秀穂<sup>1</sup>(1. 帯畜大, 2. 北農研), 栽植密度がマイクロチューバーを種いもとするバレイショに及ぼす影響. ○津田昌吾・森元幸・小林晃・田宮誠司(北農研), テンサイOwen型細胞質雄性不稔に対する稔性回復遺伝子R<sub>f</sub>2の遺伝的解析. ○樋山肇<sup>1</sup>・森谷麻理<sup>1</sup>・田口和憲<sup>2</sup>・久保友彦<sup>1</sup>・三上哲夫<sup>1</sup>(1. 北大院農, 2. 北農研), テンサイ種子の越冬性について. ○中司啓二<sup>1</sup>・秦泉寺敦<sup>2</sup>・根津隆次<sup>2</sup>・柏木浩二<sup>2</sup>(1. 北農研, 2. 北糖(株)), テンサイにおける栽培様式と収量特性の関係について. ○岡崎和之・田口和憲・黒田洋輔・高橋宙之(北農研), テンサイの根表皮におけるリグニン含量と根腐病抵抗性について. ○田口和憲<sup>1</sup>・岡崎和之<sup>1</sup>・西谷和彦<sup>2</sup>・阿部英幸<sup>1</sup>(1. 北農研, 2. 東北大), てんさい育成系統におけるカルス形成率及び不定胚形成率の向上. 富田謙一(道立中央農試), 低温下におけるテンサイの初期育成. ○黒田洋輔・高橋宙之・田口和憲・岡崎和之・阿部英幸(北農研) 久保友彦(北海道大学大学院農学研究院)

## ◇ 中部(東海)地区

育種学会中部地区談話会(第17回講演会)

育種学会中部地区談話会は、2009年12月5日、静岡大学農学部において第17回講演会を開催した。講演会では、特別講演として“わが国のカンキョ育種”と題した農研機構果樹研究所の吉岡照高氏、“イチゴ品種「紅はっぺ」の育成と普及戦略”と題した静岡県農林技術研究所の竹内隆氏の発表があった。一般講演では、14題の発表があった。例年を上回る92名の参加者があり、また本講演会では学生、院生、ならびに若手研究者を中心に自身の研究内容を紹介し合う“ショートトークプログラム”も21題行われ、活発な議論が展開された。

佐藤豊(名古屋大学大学院生命農学研究科)

## ◇ 中国・四国地区

育種学会四国談話会

四国地域では、11月26日(木)に日本作物学会四国支部・日本育種学会四国談話会合同シンポジウムを、また11月27日(金)には日本育種学会四国談話会講演会

(第74回)を、徳島県立農林水産総合技術支援センター農業研究所において実施しました。公開シンポジウムの参加人数は約80名、演題は4題です。また、四国談話会の参加人数は約30名、演題は11題です。それぞれのプログラムは下記の通りです。

公開シンポジウム1.「新規需要米の開発と需要拡大への取組について」(1)徳島県の米を取り巻く情勢について。大塚慶治(徳島県ブランド戦略課)(2)県内新規需要米の畜産利用について。福井弘之(徳島県吉野川農業支援センター)(3)管内における稲作と米需要拡大の取組について。西田聖(JA東とくしま)(4)米の新規需要に関する研究の現況について。飯田修一(近中四農研)

公開シンポジウム2.「普及の現場から」(1)阿波藍の現状と課題～ジャパンプルーの復活を目指して～。吉原均(徳島県鳴門藍住農業支援センター)

日本育種学会四国談話会第74回講演会 一般講演:(1)シコクカッコソウにおける花色変異拡大と4倍体の花器形質・花色。神谷英里・大橋広明(愛媛大農)(2)シコクカッコソウの4倍体誘導効率の個体間差の検討。山口真里奈・八田美歩・大橋広明(愛媛大農)(3)大麦における皮・裸性判別技術の確立。田中美奈<sup>1</sup>・飯田大輔<sup>2</sup>・長嶺敬<sup>3</sup>・栗坂信之<sup>1</sup>(1. 愛媛農研, 2. 愛媛大農, 3. 近中四農研)(4)パルス放電による植物種子の不活性化。神子沢隆志<sup>1</sup>・大村優樹<sup>1</sup>・栗坂信之<sup>2</sup>・門脇一則<sup>1</sup>・木谷勇<sup>1</sup>(1. 愛媛大工, 2. 愛媛農研)(5)サトイモ新品種「媛かぐや」の育成について。浅海英記<sup>1</sup>・玉置学<sup>2</sup>・森川隆久<sup>3</sup>・石川川英樹<sup>1</sup>(1. 愛媛農研, 2. ㈱垣本商事, 3. 久万高原農業指導班技術普及グループ)(6)ツツジの野生種(モチツツジとキシツツジ)の形態的比較。植田諒介<sup>1</sup>・南谷幸雄<sup>1,2</sup>・平田亜也<sup>1</sup>・早川宗志<sup>1,2</sup>・村松優子<sup>1</sup>・齋藤倫広<sup>1</sup>・福田達哉<sup>1</sup>(1. 高知大農, 2. 愛媛大院連合農学)(7)トウネズミモチとネズミモチの自然交雑の可能性に関する遺伝的検証。齋藤倫広<sup>1</sup>・早川宗志<sup>1,2</sup>・南谷幸雄<sup>1,2</sup>・村松優子<sup>1</sup>・平田亜也<sup>1</sup>・植田諒介<sup>1</sup>・松山佳那子<sup>1</sup>・大賀教平<sup>1</sup>・横山菜々子<sup>1</sup>・室井美和子<sup>1</sup>・伊藤桂<sup>3</sup>・福田達哉<sup>1</sup>(1. 高知大農, 2. 愛媛大院連合農学, 3. JSTイノベーションサテライト高知)(8)落葉低木コバノハナイカダにおける雌雄の繁殖戦略の解明。平田亜也<sup>1</sup>・村松優子<sup>1</sup>・南谷幸雄<sup>1,2</sup>・早川宗志<sup>1,2</sup>・福田達哉<sup>1</sup>(1. 高知大農, 2. 愛媛大院連合農学)(9)テンナンショウ属の種間における形態学的研究。村松優子<sup>1</sup>・早川宗志<sup>2,3</sup>・南谷幸雄<sup>2,3</sup>・平田亜也<sup>1</sup>・松山佳那子<sup>3</sup>・福田達哉<sup>1,3</sup>(1. 高知大学大学院総合人間自然科学研究科, 2. 愛媛大院連合農学, 3. 高知大農)(10)ユキモチソウ(*Arisaema sikokianum* Franch. et Savat.)およびアオテンナンショウ(*A. tosaense* Makino)(Araceae)間の種間雑種。早川宗志<sup>1</sup>・濱地秀徳<sup>2</sup>・村松優子<sup>2</sup>・平田亜也<sup>2</sup>・南谷幸雄<sup>1,2</sup>・松山佳那子<sup>2</sup>・伊藤桂<sup>3</sup>・横山潤<sup>4</sup>・福田達哉<sup>2</sup>(1. 愛媛大院連合農学, 2. 高知大農, 3. JSTイノベーションサテライト高知, 4. 山形大理)(11)ガンマ線照射によるサトイモの変異体獲得につい

て、高橋諒<sup>1</sup>・浅海英記<sup>2</sup> (1. 愛媛県立農大, 2. 愛媛農研)  
柿原文香 (愛媛大学農学部)

### 日本育種学会会員異動 (2009.10.21 ~ 2010.1.20)

◇ 普通会員入会 : 足利奈奈, 奥山昌隆, 柏木純一, 川西由紀, 古田和義 (北海道), 中込弘二 (秋田), 一家崇志, 大野陽子, 岸根雅宏, 山崎明彦, LEMOS NOELLE GIACOMINI (茨城), 飯塚弘明 (群馬), 大岡直人 (埼玉), 宮城敦子 (東京), 大角壮弘 (新潟), SHENTON MATT, 永田俊文 (静岡), 小堀純奈, 斎藤新 (三重), 岡本俊介 (滋賀), 徐正進, 辻村真衣, 吉見麻衣子 (京都), 村上恭子 (香川), 浅海英記 (愛媛), YANORIA MARY JEANIE (福岡)

◇ 学生会員入会 : 後藤歩 (岩手), BHRINI INSAF, 勝沼法朗, MARZOUGUI SALEM (茨城), 酒井かおり, 高嶋美穂 (栃木), 榎本裕介, 雲岡秀樹 (千葉), 荒川恵理, 胡仲遠, 小林薫, 澤井五月, 高階泰宗, 廣岡友子, 藤

井広樹, 松尾優一, YEW CHOW LIH, 渡邊みづき (東京), 石黒郁美, 柏倉雄一, 古川真人, 三井麻利江 (神奈川), 北村雄 (新潟), 中村真也 (福井), 小澤俊輔 (長野), 米田典央 (静岡), 加藤丈幸 (三重), 佐柄友佳子 (京都), 飯塚貴大 (大阪), 岡本恵美, 竹之内悠, PHAM THIEN THANH, PHAN DANG THAI PHUONG, 本村洋一 (兵庫), 松本翔太 (鳥取), 八軒雄大 (広島), 中村哲洋 (福岡), 石井修平 (宮崎), 飯山光太郎, 竹本祐真 (鹿児島)

◇ 外国会員入会 : KIM YONG-HWAN, LEE SE-DO (大韓民国), 陳温福 (中華人民共和国)

### 住所変更等

◇ 普通会員 : 牛木純, 田宮誠司 (北海道), 赤羽美智子, 齋藤美沙 (岩手), 深井英吾 (千葉), 北村嘉邦, 松村英生 (長野), 木藤新一郎, 森藤暁 (愛知), 大西孝幸 (奈良), 牛島智一 (福岡)

◇ 学生会員 : 大嶋雅夫 (茨城)

◇ 外国会員 : TSUJI KOJI (マレーシア)